

日 ソ 知 事 懇 談 会  
議 事 録

昭和 43 年 12 月

全国知事会有志知事

## 目 次

1. 日ソ知事懇談会次第	1 頁
2. 出席者一覧	2
3. 議事概要	5

### 〔資料〕

#### 第3回日ソ経済合同委員会日本側トーキング

ペーパーより抜すい	23
-----------	----

沿岸貿易の問題点	25
----------	----

# 1 日ソ知事懇談会 次第

1968. 12. 25 (水) 15:00～17:00

赤坂プリンスホテル 新館 22号

- 1) 開 会 全国知事会 村上渉外部長
- 2) 両国知事の紹介 日本側 亘新潟県知事  
ソ連側 クズネツォフ沿海地方知事
- 3) 来賓祝辞 日本側 田中外務政務次官  
ソ連側 トロヤノフスキー大使
- 4) 日本側知事代表挨拶 田部島根県知事  
ソ連側知事代表挨拶 チョルヌイ・ハバロフスク地方知事
- 5) 懇談  
(1) 議長 千田岩手県知事  
(2) 懇談内容の提案 安孫子山形県知事  
(3) 懇談
- 6) 両国知事閉会 ソ連側 ドミトリエフ・チタ州知事  
の辞

日本側 吉田富山県知事

レセプション 晩さん会 17:00～

乾 杯 金井兵庫県知事  
晩さん  
あいさつ 西沢長野県知事  
チョルヌイ・ハバロフスク地方知事

## 2 出席者一覧

### ソ連側

ハバロフスク地方知事	A・K・チョルヌイ
沿海地方知事	M・M・クズネツォフ
チタ州知事	N・I・ドミトリエフ
サハリン州副知事	S・K・ブローヒン
イルクーツク州副知事	M・I・ユズロフ
ソ日協会事務局次長	A・A・ジュドロ

### 日本側

青森県知事	竹内俊吉
岩手県知事	千田正
山形県知事	安孫子藤吉
新潟県知事	亘四郎
長野県知事	西沢権一郎
富山県知事	吉田実
石川県知事	中西陽一
福井県知事	中川平太夫
兵庫県知事	金井元彦
鳥取県知事	石破二郎
島根県知事	田部長右衛門
山口県知事	橋本正之

来 賓

在 日 ソ 連 大 使	O・A・トロヤノフスキー
外 務 政 務 次 官	田中六助

オブザーバー

ソ 連 大 使 館 公 使	A・P・オコニシニコフ
同 参 事 官	A・S・チャソフニコフ
同 参 事 官	E・S・ヤストレボフ
同 一 等 書 記 官	V・V・デニソフ
同 二 等 書 記 官	B・I・ウグリノビツチ
同 通 訳 官	K・E・チエレフコ
ソ 連 通 商 代 表 代 理	V・I・アキモフ
ソ連通商代表部沿岸貿易部長	V・P・ダーエフ
外務省東西通商課長	川 出 亮
岩手県秘書課長	関 幸 人
岩手県東京事務所長	伊 藤 成 孝
山形県東京事務所長	原 田 二 郎
山形県東京事務所主幹	浮 村 直 光
新潟県東京事務所 庶務課長兼行政課長	白 瀬 敏 雄
長野県東京事務所長	御 所 窪 正 蔵
富山県秘書室長	高 井 幹 夫
石川県東京事務所長	米 沢 正 吉
兵庫県通商観光課長	岩 崎 忠 雄
鳥取県東京事務所長	平 岩 照 耳

島根県水産商工部長	喜多村	勇
島根県東京事務所長	前田	正昭
山口県東京事務所次長	渡辺	寿夫

事務局

全国知事会渉外部長	村上	良太郎
同副部長	小川	政吉
ハバロフスク会事務局長	榎	二郎
ソ連産業技術研究所副所長	久野	公

### 3 議 事 概 要

○ 村上全国知事会渉外部長 本日は外務大臣のご出席をいただく予定でありましたが、ご多忙のためお見えになりません。メッセージをいただきましたので、本日も出席されました、外務省田中政務次官からお伝え願うことにいたします。

○ 外務大臣代理（田中政務次官）（拍手）今回、全国知事会の招待により、ハバロフスク州のチョールヌイ知事、沿海州のクズネツオフ知事、チタ州のドミトリエフ知事、サハリン州のブローヒン、イルクーツク州のコズロフ両知事代理が来日されましたことを歓迎して、一言ごあいさつ申し上げます。

日ソ両国の関係は、日ソ共同宣言をはじめ、漁業条約、通商条約、長期貿易協定、航空協定、領事条約等を基礎として発展してまいりましたが、両国間の友好関係の樹立は、両国国民の間の密接な接触及び相互理解なしには不可能であります。この意味におきまして近年、日ソ貿易の急速な発展とともに、人的交流が年々盛んとなってきましたことは、慶賀にたえない次第であり、海を隔てて一衣帯水、日本に最も近いソ連極東地方の知事がそろって来日されて、東京のみならず全国各地を訪問されたことは、一段と意義深いものがあります。

本年7月に締結されました、極東森林資源開発協力に関する「基本契約」に見られますように、日本とソ連極東地方との関係は、緊密かつ互恵的な相互依存の関係にあります。さらに極東森林資源開発に続く第2、第3の協力案件も、日ソ、ソ日経済委員会合同会議において熱心に討議されており、われわれもそこから新しい積極的な成果が生まれることに大きな期待を持っております。

日ソ貿易発展のカギの一つは、ソ連極東地方の港湾施設の拡充、整備で

ありますが、これについても、日本から専門家の使節団が明年春ごろ貴国を訪問し、極東港湾の視察とソ連側関係者との協議を行なうことになっておりますが、使節団の任務達成のため、この場をかりて知事の各位のご協力をあらかじめお願いいたします。

日ソ間、特に日本とソ連領極東地方との間の人的、物的交流、特に沿岸貿易は、年々発展しているとはいえ、いまだ貿易総額のわずか2%にすぎません。これをさらに発展させなければなりませんし、また日ソ双方の努力によつて実際に発展する可能性は十分あると思います。

どうか日本の実情をよくごらんになつて、ありのままをソ連国民、特に極東地方の各位にお伝えくださるとともに、今後ソ連の皆さまが一人でも多くわが国を訪問され、日本をさらによく理解されるよう願つてやみません。

ただいまから開催されます日ソ知事懇談会が率直かつ友好的な討議を通じて、実り多い成果をあげられますよう希望いたします。(拍手)

- 部長 それでは次に、トロヤノフスキーソ連大使にお願いいたします。
- トロヤノフスキー大使 (拍手) 尊敬する知事閣下の皆さん、尊敬する田中外務次官閣下、尊敬する各位の皆さん、本日はこの集まりにご親切なお招きをいただきまして、全国知事会及び有志県グループに対して、まず第一にお礼を申し上げます。

ここに出席しておられる日本の方々の多くは、その県内だけではなく、県外遠くにもよく知られております。わが国ソ連からも、チヨルヌイさんを団長とする非常に有力な使節団が来たのであります。

本日は、皆さんと私たちは意義深いできごとの目撃者であります。この集まりは、両国間の協力のこの新しい形を植えつける一步を踏むことを必要としております。皆さまの知事閣下を中心とする両国の地方機関の方々は、この協力を促進する原動力の役割りを演ずることになると思います。この分野においてはまぎれもなく、可能性をまだまだ尽くしていないので



あります。このことに関連して、日ソ両国の知事閣下及び両国の地方の交流はこれからも発展することを希望しております。

このような努力をする理由はいかなる目的によるものでありましようか。返事は簡単かつ明確であります。すなわち、このような努力は何よりも、まず、日ソ両国の親善関係を強化するためであります。したがって、それは極東及びその他の世界の地域において、平和を固めるために必要なことであるわけであります。

前言いたしましたことは、ソ連の対日政策のおもな目的であり、同じくソ連の地方及び州の首脳者代表会議議長の使節団のおもな目的であります。

終わりに、この集まりに参加しておられる皆さんに、両国及び両国民の利益になるようなご成功と実りのある成果を心からお祈りいたしたいと思っております。

ご静聴どうもありがとうございました。(拍手)

○ 部長 ありがとうございます。

時間の都合もありますので、これで来賓の祝辞を終わらせていただき、次に日本側知事を代表しまして、田部島根県知事さんにごあいさつをお願いいたします。

○ 田部知事 (拍手) 私は島根県知事の田部でございます。

今回のソ連邦極東知事団を招聘いたしました 17 都県知事を代表いたしまして、一言ごあいさつを申し上げます。

ソ連邦極東知事団ご一行には、ご多忙のみぎり、遠路はるばるおいでいただき、またお疲れを癒す間もなく、ご熱心に各地をご視察いただきましたことを、まずもつてお礼申し上げます。

わが国とソ連邦は、日本海を隔てた対岸の国として、古くから交流のあつた間柄であります。最近、その友好が一段と深められ、特に貿易を通じてますます親密になりつつありますことは、まことに喜ばしいことでもあります。

このたびの知事団招聘につきましても、日ソ貿易の推進を期待してやまない17都県の知事が相はかり、わが国の産業、経済、文化等を各方面にわたりご視察願ったわけでありまして、その成果は非常に大きいものであったと信じております。

また本日、全国知事会の肝入りで、初めての日ソ知事懇談会が開かれたことは、まことに時宜を得たものでありまして、日ソ両国の発展のためきわめて有意義なものであります。

今後、この会がさらに回を重ね、わが国とソ連が一そう理解と友好を深めつつ、交流を続け、貿易の拡大をはかりますならば、わが国の地域産業の振興はもとより、ソ連邦極東地域の開発に寄与するところはまことに多大なるものがあります。どうかこの会が、相互信頼のもとに充実、発展しますよう期待してやみません。

終わりに、日ソ両国の繁栄と極東知事団のご健康をお祈りいたしまして、簡単ではありますが、歓迎のあいさつといたします。

バリシヨイ・スパシーバ。(拍手)

- 部長 次に、ソ連側知事団一行を代表いたしましてチヨルヌイ知事さん  
にお願いいたします。
- チヨルヌイ知事 (拍手) 尊敬する知事閣下の皆さん、各位の皆さん、  
事務局の皆さん、すばらしいあなた方の国を訪れるようご招待をいただき、  
皆さまにお目にかかり、この集まりでお話申し上げる機会を得ましたこと  
に対しまして、全国知事会の方々に何よりもまず心からのお礼を申し上げます。

去る16日に訪日したわが国の代表団は、皆さまのお世話になりまして、新潟、長野、山形、石川、岩手、青森、秋田、富山、福井、島根、宮城、兵庫の各県を訪問することができたわけでありまして。日本の国内情勢、すなわち、経済、文化、生活ぶり、また知事閣下のご活躍並びに県行政の状況を紹介していただくよい機会を与えてくださいました。きょうの皆さま

との会合が最後の会合にならないように希望しております。そうしてまた今後貴国において何回もお世話くださるとともに、わが国ソ連においても、何回も皆さまとお会いできることを希望しております。

尊敬する皆さん、日ソ共同宣言以来、10年にわたって日ソ両国の関係は、すべての面において順調に発展しており、お互いに利益をもたらしているのです。

ご承知のことと思いますが、貿易、経済関係は国家間の協力の重要な形の一つであります。1957年から1968年までに貿易高は10倍にふえ、5億ルーブルを上回ったのであります。このようにして日本は、資本主義諸国間では対ソ貿易のおもな相手になったわけであります。

ここ数年にわたってソ連政府は、両国の沿岸貿易を促進する上で幾つかの措置をとったのであります。1964年にこの経済関係を進めるために、わが国においてダリントルグという輸出入の事務所を設置したのであります。それ以後、貴国の会社及び企業団体が積極的に努力をされた結果、両国間の沿岸貿易高は急速にふえたのであります。60年代には沿岸貿易高は、ごく少ないものでしたが、1967年に、もはや、1,200万ルーブルに達したのであります。沿岸貿易の見通しは、今後日ソ貿易全体が成功裡に発展するなかで、もつと広い、よりよき可能性をもつに違いないと思えます。近い将来、沿岸貿易の金額が2~2.5倍にふえる可能性もあります。このような可能性がありますが、それを实际的に達成するためには両国の協力が必要であり、また品目を相当に広げ、輸出品の質を改善するなどの多くの問題を解決することが必要であります。

尊敬する皆さん、両国民の間に友好関係を発展させるにともなつて、自治体間の姉妹関係を結ぶ新しい形ができつつあるのであります。姉妹都市というごく簡単な身近かな表現は、多面的なつながりをもちつつあります。地方団体の代表者を中心とする使節団の交流、さまざまな職業に従事している科学、文化、教育、観光、交通等の面における活動家の交流など、そ

ういうことを意味しております。

ことしも、革命 51 周年記念日あたつて、横浜、新潟、広島、金沢、小樽、舞鶴などの姉妹都市の皆さんからメツセージを送つていただきましたことを、まことに嬉しく存じております。来年も姉妹都市の関係を一そう強めたいと思います。

私たちが代表している地方及び州、すなわち、ハバロフスク地方、沿海州地方、サハリン州及びイルクーツク州だけで、1969 年に 19 の代表団の交流をする予定であります。その中には地方機関の代表団、船員、教員、建設と工学の専門家、日ソ友好団体の活動家の代表団、芸術団などの代表団が入っております。

都市間の姉妹関係を結ぶことは、両国の関係を密接にする大きな意義のある新しい現象であります。この関係の見通しは非常に明かるいものでありますので、お互いに協力しながら両国民の関係を発展させるために、どういふふうにご利用したらいいかを検討することができると思います。

ここ数年にわたつて、貴国の知事の方々もソ連との善隣関係を進めるための運動に、ますます積極的に参加しておられることはまことに喜ばしく存じます。正確な数字を申し上げられないかも知れませんが、ここ数年間だけで 11 人の日本の知事の方々、すなわち、石川県の中西知事閣下、岩手県の千田知事閣下、秋田県の小畑知事閣下、青森県の竹内知事閣下、富山県の吉田知事閣下、鳥取県の石破知事閣下、長野県の西沢知事閣下、新潟県の亘知事閣下、北海道の町村知事閣下、ことしに入つて山形県の安孫子知事閣下及び島根県の田部知事閣下がわが国に対する友好使節として訪問されたのであります。このほかに貴国の数多くの副知事、県議会議長や県議会の代表者、市長、市議会の議長や議員の方々も訪ソされたのであります。来年も全ソ対外文化友好連絡団体連合会及びソ日協会は、貴国の幾人かの知事及び市長の方々をソ連へご招待したいと思います。

いまのところでは、全国知事会の知事のグループの招きによつて、私た

ちがあなた方の国を旅行し、皆さまのお世話になりました。貴国を訪れ、日本国民の労働条件や暮らし方、並びにその歴史の長い文化や技術を知る機会を得たことを嬉しく思います。同時に、全国知事会の皆さま方と密接な関係を結び、知事会の経験をうかがい、そのいろいろの県の活動を視察し得たことは、特に嬉しく存じます。

本日のように盛大な集まりは、日ソ沿岸貿易、見本市、万国博覧会、両国の姉妹都市、文化、科学、技術における社会団体や地方団体の活動に関する資料交換の拡大による皆さまの全国知事会と、わが国の地方及び州執行委員会議長の間をつなぐを深め、協力を強めるというような日ソ両国の関係を発展させ、またいろいろな重要な問題を解決することに、大いに貢献し得ると私どもは考えるものであります。そういうわけで、まったく近いうちに日ソ知事会議をつくり得るという見方に深い関心を持つに至ったのであります。

この会議をつくることは、今後の皆さまとの関係を恒常的なものに発展させる上で有益になると存じます。私どもは、日ソ沿岸貿易の交流の成果を発展させ、この交流を拡大する新しい道をきめる日ソ代表会議を開く問題を検討することが有益であると思います。皆さまとのつながりを広げる可能性が実現されるためには、皆さまの全国知事会と私どもの協力を強めることの助けとなるどんな提案も検討する用意があります。

おしまいに、わが国の代表団の名をもつて、ご親切なもてなしを受けましたことに対して繰り返してお礼を申し上げ、そうしてまた来年、ご都合のよいときに皆さまの全国知事会の代表団をわがソ連にご招待いたします。私どもとしては、ソ連における皆さまの旅行が快適でまた有益なものになるように、全力を尽くしたいとお約束いたします。

ご静聴ありがとうございました。(拍手)

- 部長 これから両国知事さんの懇談会に移りますが、議事を円滑に進めるために、千田岩手県知事さんに議長になっていただくことにいたしまし

たので、ご了承願いたいと思います。

〔千田岩手県知事議長席に着く〕

- 千田議長（拍手）僭越でございますが、ご指名によりまして、議長の席に着くことになりました。この会合が円滑に運営できますように、皆さまの格段のご配慮をお願いいたしたいと思います。

それではこれからご懇談をお願いいたしますところの議題は、ソ連側との打ち合わせによりまして「日ソ貿易拡大に関する具体策について」という一つの議題にいたしましたので、ご了承をお願いいたします。

それではこれから懇談に移ります。両国知事さんの活発なご発言をお願いいたします。安孫子知事さん。

- 安孫子知事（拍手）それでは私、最初に皮切りということで申し上げてみたいと存じます。

チヨルヌイ団長をはじめとして皆さま方をお迎えできましたことを非常に嬉しく思っているところでございます。いま議長からご承認をいただいたきょうの懇談のテーマにつきまして、私からお話の口火を切るという意味で、話題を提供させていただきたいと存じます。

ご承知のとおり、今月の6日から11日まで東京で第3回の日ソ経済合同委員会が開催されました。ですから、今日、日ソ沿岸貿易をテーマとした懇談を日ソ両国の知事が行なうということは、たいへん時宜に適したことであらうと思います。

沿岸貿易は昨年1967年には1,400万ドルに達しましたが、率直に申しまして、ことしはいろいろの条件のために十分でないように考えております。逆に申しますならば、沿岸貿易をさらに発展させるためには、日ソ両国が改善、研究しなければならぬ問題が数多くあることを物語っていると存じます。

このことに関し、ソ連側からも日本側からもそれぞれご意見のあるところでありましようが、たとえば日ソ双方が輸出入についてもつと研究を深

める、そうした研究を深めたプランを作らなければならぬということ、あるいはお互いの見本品を見せ合うことをもつと簡単にやれる方法を研究することなどであろうかと存じます。

さらにこれを敷衍しますならば、日ソ双方の地方機関がもつとダリイントルグに、あるいは日本側の商業機関貿易協同組合に助言と援助を与えることが非常に大切だと考えるのでございますが、この点についてのお互いの意見の交換をすることが一つの問題だと思っております。

第2の問題は、ただいま申し上げました第1の問題を解決するための第一歩といたしまして、かつ最も具体的なプランを樹立する意味において、1970年の商業契約を目標に選び、明年すなわち1969年に日本の知事のソ連訪問の機会に現実的な輸出入プランを検討し合い、その検討されたプランを1970年の商業契約に反映させるということが最も具体的な、また当面する問題ではないかと考えます。

なお、ご参考のために日ソ経済合同委員会の席上、日本側から述べました沿岸貿易に関する事柄と、ハバロフスク会がまとめた日本側の問題点を印刷物として添付してございますので、ごらんいただきたいと存じます。

この際、問題点を率直に申し述べましたが、それは沿岸貿易を拡大させるための日本側の熱意による点をご了承願ひ、誤解をいたさないように、ぜひご理解をいただきたいと存じまして、私の提案の事柄を申し上げた点をご理解願ひたいと思います。

ご静聴ありがとうございました。

- 千田議長 何かご発言ございませんか。
- チヨルヌイ知事 日本側のほうからどなたか発言なさるつもりはございませんでしょうか、そのあとでソ連側のほうからチヨルヌイがご答えいたしたいと思いますが…。
- 千田議長 それでは金井兵庫県知事さんから。
- 金井兵庫県知事 具体的な問題ですけれども、いま東京を中心とする大

阪の商社を経てわが国にマツチの資材が輸入されております。このマツチは100%兵庫県で使用されておりますが、これをダリイントルグ経由でやっけていただくように振りかえることができるかどうか、私どもはそれを非常に希望しているわけです。それについてもご意見をお聞かせいただければけっこうだと思います。

- 千田議長 ほかにご意見ございませんか。
- 吉田富山県知事 青森県から山口県まできょうはほとんど知事さんがおいでですが、私、「日本海沿岸振興連盟」のお世話をしておりますので、ちよつとお尋ねいたしたいと思います。

「日本海沿岸振興連盟」は5年前に結成されたものですが、この連盟で12県が一体となつてソ連のイルクーツク、それから東方イルクーツクを含む極東地方と姉妹関係を結んだらどうかということで、12県の下承を得ております。これは66年にハバロフスクにまいりましたときに、チヨルヌイ知事さんにも申し上げたわけですけれども、それは具体的にご検討いただいているのでしょうか。もう一度こういう席がございましたので提案申し上げますので、お考えを伺いたいと思います。

- 千田議長 ほかに日本側からご質問ございませんか。
- 西沢長野県知事 私、昨年まいりまして、たいへんご厄介になりました。そのときに、ソ連の要路の人に、液化ガスについてお願いをしておりますが、その詳細（ダリイントルグの対象にならないのじやないかと思ひますが）、あるいはその現状とか将来のことについて、もし、お知らせいただけたら幸いです。
- 千田議長 ほかに日本側からございませんか。— それではチヨルヌイ知事さん。
- チヨルヌイ知事 尊敬する皆さん。この集まりにおいて指摘されたところによりますと、日ソ両国が非常に近いということは、沿岸貿易を促進するためには非常にいいチャンスを与えていると思うのです。ソ連側がこの



問題を重視しているという事実として、ナホトカにダリイントルグという沿岸貿易事務所ができたことがそれを物語っております。

沿岸貿易は日ソ間に生れた小さな子供といつてもいいのではないかと思います。この子供は、小さいけれども、だんだん成長しているということも言えるのではないかと思います。いまのところでは、沿岸貿易の線に沿って水産物などいろいろの魚も売っております。又いろいろの木材、加工された木材も売っておりますし、いろいろの鉱石も売っております。

(たとえば大理石や螢石などであります。) またいろいろの薬草その他の製品も売っております。

日本から輸入されている品物は、いろいろのメリヤス製品、ミシンでつくつたいろいろな縫製品、くだもの、航海するときを使ういろいろの機具、また水産操業のときに使ういろいろの装備、設備、ワイヤーロープ、いろいろのロープとかプラスチック製品も買っております。年ごとに沿岸貿易には新しい製品がだんだん入っております。ことし沿岸貿易に参加している地方は、ハバロフスクや沿海地方だけではなく、サハリン、カムチャツカ、イルクーツクなどの諸州及びヤクーツク自治区、ブリヤート自治区、またチタ州も参加するようになりました。結局、極東と東シベリアの全地方と州が参加しております。

安孫子知事が申されたとおり、ことしの沿岸貿易高は、去年と比べれば少なくなつたということですが、しかし、これはソ連側だけのせいではないと考えております。あなた方の国のいろいろの会社や企業団体は、ソ連側のいろいろの製品に関心を見せておられましたけれども、けつきよく日本国内の事情によつて、いろいろの品物を買うことができなくなりました。それはたとえば澱粉、冷凍いか、こんぶ、油、バター、動物の脂肪、にしん、かずのこなどの品物であります。

去年の沿岸貿易には小さいエビはかなり入つておりました。残念ながらことしはダリイントルグは値段が非常に低かつたので、小さいエビを売る

ことができなかつたわけであります。去年、日本のいろいろの会社、企業団体は、木材の加工、半加工されたものを買ったんですが、ことは日本国内の市況が悪化したためあまり買いませんでしたので、結果的に沿岸貿易に好ましくない影響を与えました。

1968年のデータを見てみますと、ダリイントルグとの完全な貿易関係を持っている日本の会社、企業団体の数は70に達したのであり、そうしてまた接触の関係を保っている会社、企業団体の数は108を上回ったのであります。ですから私の意見では、今後とも日本側のいろいろの会社、企業団体がダリイントルグとの関係を広げるならば、沿岸貿易によい影響を与えたいと思います。

一方日ソ両国沿岸貿易を拡大するためには、ダリイントルグもこれからの日ソ貿易を拡大することができるために、日本側のいろいろな会社や企業団体の関心を持っている製品の注文をもらうよう評価をいただくことが好ましいと思います。ソ連の極東及び東シベリアの地方と州はいろいろの新しい製品を輸出する用意があります。残念ながら、日本の会社、企業団体は新しい製品についてあまり詳しく研究をなさいませんが、これは好ましいことではありません。しかし、ほかの国の同じような製品を、日本の会社や企業団体はかなり輸入している場合があります。この面においてはまだまだ可能性があると思います。また螢石とか、金属産業のためによく使われるいろいろの原料があります。

このさいもう一つのことを申し上げておきたいと思います。それはソ連の人々が広く使っている日本製品、日本から輸入した商品の質が最近低くなつたということを指摘しておきたいと思います。沿岸貿易は非常に若いものであります。ですから、こういうような貿易を組織する面においても困難があります。

しかし、このような困難は一時的なものであると確信しております。もし、日ソ両方の希望と試みがありましたら、このような困難を乗り越える

可能性が十分あると思っております。ですから、極東及び東シベリアと貴国の地方との間には、この貿易を成功裡に発展させる可能性が十分あると思います。ソ連の東シベリアと極東の経済の現状は、沿岸貿易を発展させる可能性を示しています。私たちの代表団はあなた方の国を旅行しているうちに、いろいろの知事閣下とお会いし、また実業家の代表者とお会いできた結果、沿岸貿易に対する関心が深いということを確認いたしました。われわれは、もしお互いに協力してやつてゆくならば、小さい子供の沿岸貿易を大きな力強い男子に育てることができるということを期待してよいと思います。

本日は、席上、知事閣下のほうから、この沿岸貿易をどういうふうに進進したらよいかについて、いろいろの具体的な提案をなさつたのであります。私どもとしては、皆様方のご提案をソ連の貿易当局に伝え、注意深く検討せしめたいと考えております。

姉妹関係につきましては、わが国ではこういう提案はいつも歓迎しております。

- 千田議長 ただいまチヨルヌイさんからお話がありましたが、兵庫県知事のご質問の、マッチの問題は、ダリイントルグと十分話し合いをしていただきたいというお話でございます。

それから西沢知事さんののは、液化ガスの問題について何かご報告があったら聞かしていただきたいということでございます。

- チヨルヌイ知事 マッチの原料について申しますと、私どもは直接に沿岸貿易の代表者でないものですから、とにかく、この問題を詳しく検討し、そうして皆さまはどの材料、どのくらいの量について提案なさりたいのか、また、ソ連側の可能性ももう一度検討しなければならないと思います。

液化ガスの問題に関しまして、ご承知のことと思いますが、いまのところでは、液化ガスの問題は、日ソ双方の専門家によつて研究されており、したがつて、専門家たちがこの問題を研究した結果を待つたほうがいいんじ

やないかと思っております。つけ加えますが、液化ガスはまだ沿岸貿易に入っておりません。

- 千田議長 どうもありがとうございました。まだ……。
- 吉田知事 沿岸貿易の特徴と申しますと、やはり、日本の地方的なローカルの産業と極東地方とが結びつくところにあると思いますが、ただいまチヨルヌイ知事さんのお話を伺いますと、ことしは78社ですか、72社、あるいは108社ですか、企業または組合が日本側でダリイントルグと取引をしている。つまり、ソ連側での窓口はダリイントルグ1本で、日本側には100近いものがある。こういうことはやはり、事務的にもダリイントルグとの話し合いがおくれたり、したがって、いろいろなことがうまくいかない理由の一つになっていると思います。沿岸貿易の特色として、どうしても地方的な産業と結びつきますので、日本側がこれを直ちにまとめるということは、非常に困難だと思えますが、もしも、日本側で、たとえば県によつては3つもある沿岸貿易関係の組合をできるだけまとめて連合体をつくるということが、ダリイントルグにおかれて、非常に取引の都合がいいかどうかということをお伺いしたいと思えます。
- チヨルヌイ知事 まず第1に、この問題は日本側にまかせたほうがいいと思います。しかし、ソ連側に関しては、ダリイントルグはこの問題に関してある一定の感じを持つているのじやないかと思えます。たしかにダリイントルグの活動はやりよくなり、それは場所的にも、そうした関係を含めれば、もつと容易になるのじやないかと思えます。日本側の協会、あるいは連合会が沿岸貿易について一つになったら、はたしてソ連側のいろいろの提案、とりわけいろいろの品目を拡大することがもつとできるかどうか、いまの方がよいのではないかという問題もあります。いまのところでは、ダリイントルグの方からの見方では、この点についてあまりとくに困難を感じていないのではないかと思えます。
- 安孫子知事 先般、チヨルヌイさんが山形に見えたときも、私の一つの

考え方として申し述べたのでありますけれども、吉田さんから話がありましたように、日本の商社や企業組合が70から100もあるわけです（ダリイントルグとの間で）。実際地方の産業を指導している私どもとしては、ダリイントルグも始終何十という単位の連中から話を聞くということもなかなか困難なことではないのですか。そこで、日本が1本になつて、ということじやなく、大体、産業形態が同じような地方が一緒になりまして、何人かの人をしばらく貴方の方に置きまして、日本のその地方の産業を發展させるために働いてもらい、ほしいものを買ひ、又貴方の方も希望しかつわれわれも非常に輸出を希望しておるものも売ることができるようにしたい。たんにそろばんをはじくというだけでなく、日本の地方産業の立場からわれわれが考えて、この売買を開発してだんだん緊密に結びつけていくことによつて、沿岸貿易が伸びるチャンスは相当あるという感じがするのです。そういうことをきめた場合に、極東地域に常駐させるということにならざるを得ないと思うのですが、そういうことが可能かどうか、そういう点をお聞きしたいのです。もう一度この席で検討を願いたいと思います。

- チヨルヌイ知事 いまのところはわたしどもはダリイントルグはソ連の極東と東シベリアの地方及び州の利益をよく代表しているのじやないかと思ひます。私どもは地方、州のほうからこのダリイントルグに品目表といろいろの売買のパターンを出してやつております。それで十分じやないかと思ひますが御意見はおもしろいと思ひます。
- 千田議長 いろいろ皆さんからご発言、ご希望があると思ひますけれども、時間もまいりましたので、きようは討議された問題をさらにソ連側の方々もご検討いただきまして、どうぞ今後の両国の發展のために特段のご協力をいただきたいと思ひます。

予定の時間がまいりましたので、このあたりで懇談会を終わりたいと思ひます。長時間のご協力まことにありがとうございました。（拍手）

- 部長 懇談を終わりました、両国知事さんの閉会の辞がございます。

最初にソ連側を代表いたしまして、ドミトリエフ・チタ州知事さんをお願いいたします。

- ドミトリエフ・チタ州知事 (拍手) 尊敬する知事閣下の皆さん、田中外務政務次官閣下、本日は、私たちは、あなた方の国において、日本の知事閣下とソ連の極東及び東シベリアの地方や州の首脳者代表会議議長の使節団との懇談会が開かれたことは、有意義なことと考えております。

本日の皆さまとの会合は、私たちの滞在中行なわれたほかの会合のお話と同じように、お互いのためになり、実りの多いものになったと思われます。なぜかと申しますと、本日は両国間の協力の一つの新しい形ができたと思われるからであります。このような協力が持続的なものになることを希望しております。

来年、皆さまの全国知事会の使節団が訪ソされるとすれば、私たちと皆さまは、両国の知事間の持続的な関係をつくるような形をさらに探し出すことができると存じます。

最後に、私たちの代表団の名をもって、ご親切なもてなしを受けて、あなた方のみごとなお国を旅行する間、たいへんお世話になりました、心から感謝いたしたいと思えます。

どうもありがとうございます。(拍手)

- 部長 ありがとうございます。

次に、日本側知事を代表いたしまして、吉田富山県知事さんをお願いいたします。

- 吉田知事 (拍手) 極東地方とわれわれの日本とは、2万年も前から非常に関係がある、ということを見ると、おわかりにくい方もあろうかと思いますが、2万年前に日本海がなくて陸続きであつたとき、雷鳥が渡ってきました。長野県とか石川県、富山県、あるいは富士山にもおりますが、この雷鳥が、日本海が陥没してできたために帰れなくなつて、ずっと日本

に生活しているわけです。

この2万年前からの関係のある極東、東シベリア地方とわれわれ日本との関係は、きょうの会議によつて、今後、ますます親密になるものと期待をしております。私の顔はごらんのとおりチヨルヌイ（日本語で黒いという意味）であります。ちつとも顔の黒くないチヨルヌイ知事さんをはじめ皆さま方に久しぶりにお会いできまして、まことに嬉しく存じております。（笑声）

今度、ご一行がおいでくださいまして、非常にお忙しいところを12県もお回りいただきましたが、一向に行き届きませんで、たいへん申しわけなかつたことと思つております。

きょうはたいへんお忙しいところをソ連大使館の皆さまもおいでいただきまして、たいへんありがたく存じます。この第1回の会議が今後だんだんと発展していきますことをお祈りいたしまして、ごあいさついたします。（拍手）





### 第 3 回 日 ソ 経 済 合 同 委 員 会

日本側トーキングペーパーより抜すい

— 沿岸貿易に関する項 —

(43. 12. 10)

最後に沿岸貿易について若干申し上げる。沿岸貿易は近年、急速に発展し、昨年は輸出入合計約 1400 万ドルとなった。取引上の問題として多年、日本側の要望していた対日買付促進の問題も、昨年来、非常に順調に進行している。そして双方の輸出入はほぼ均衡がとれている。決済面においても後払いのものについては、支払い期間 2 週間と規定されているものが 2 カ月も遅延するという好ましくない傾向もあるが、一方、 $L/C$ については最近は日本側の要望どおり 100%開設が行なわれている。このようなダリイントルグの取引技術上の改善の努力はまことにめざましい。これにより双方の関係は非常に好ましい状況にある。

ただ最近、赤魚、鯨、蝦等の水産物が、ダリイントルグ扱い品目よりモスクワ・プロドイントルグに移されている。ただでさえ、沿岸貿易の取引品目のより一層の拡大が望まれているのかかわらず、このような処置は沿岸貿易を縮小に導くものとして残念がられている。上述の商品の対日輸出拡大に「ダリイントルグ」はここ数年大変な努力をし、そして今日の実績をつくつた。ダリイントルグとしても残念なことであろう。取引品目の縮小は、折角沿岸貿易に参加してきた中小企業、地方産業の今後の取引参加を困難ならしめるであろう。

つぎに、昨年来の丸太、本年の塩における一部契約不履行の事態の問題で

ある。これは極東の供給機関、輸送機関等の諸機関の連繫上の問題に由来するものと思われるが、こうした商品の恒常的対日輸出を非常に困難にし、関係商社の経営をおびやかすこととなる。

また、沿岸貿易拡大の必要な条件として、対日輸出品に関する日本市場調査に努力して欲しい。ダリイントルグ関係者がもつと頻繁に日本を訪れ、日本市場の調査を行ない、日本の需要家の要求に適合した品質、価格について、深い経験をつんで欲しい。

以上に関連し、貴方は今後の沿岸貿易についてどのような展望をお持ちになるか、おきかせ頂きたい。

両国の貿易関係は今や構造的にも大きな転換期にあり、その発展の可能性はきわめて大きい。お互いが誠意をつくし、問題の解決に努力すれば、すべて円満な結果に到達し得るであろう。日ソ両国間のこのような明るい発展の将来を確信し、この報告をおわることとする。

## 沿岸貿易の問題点

ハバロフスク会

- 1) 輸出入同時契約の完全な実施はできないか。
- 2) 価格についていえば、価格について日ソ双方がいま少し歩み寄りをみれば、特に C, B クラスの木材を日本側は輸入することが可能となり、かつ他の商品についても同様のことがいえる。
- 3) ソ連側の商品の中には日本国内では商品として受け入れるのに困難なものがある。  
しかし、この点は日本側の研究不足もある。
- 4) 1967 年～68 年にかけて一部ダリイントルグの木材（一般材）契約についてソ連側の契約不履行があつたことを遺憾とする。
- 5) 1968 年長野県の例として契約直前に契約すべき商品と倉庫にある現品とが違つていて契約することができなかつた例がある。
- 6) ダリイントルグは引き合い、問い合わせについて文書連絡の返事が大変遅い。又在東京の通商代表部を通じての連絡も同様で、したがつてどうしても貿易のビジネスが遅れがちとなる。
- 7) ダリイントルグが開発し、日本側とせつかく軌道にのつたと思われる取り引きを、モスクワの公団に移してしまうようなことは大変こまる。  
（エビ、赤魚、鯨の例）
- 8) ダリイントルグの要員をもつとひんぱんに日本によこして、日本の市場、商品、価格について充分調整されることを強く希望する。
- 9) ダリイントルグの商品に丸太（一般材）を加えることを強く希望する。
- 10) ダリイントルグは日本における地方貿易協同組合との取り引きを、た

とえはじめは小さくともそのもつ意義を重視して、この成長に注目してもらいたい。

- 11) 日本商品の見本をダリイントルグに提示するのに、もつとたやすい便宜を計つてほしい。

たとえば、繊維製品の場合、ハサミをいれて商品としての価値をなくせばもつと簡単にナホトカにおける税関を認め、船を降りてからただちにダリイントルグに見本として提示できるよう便宜は計れないものだろうか。